

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2010.8.5 No. 81 連絡先 FAX 042-555-1911



「横田基地の撤去を求める西多摩の会」第3回総会開かれる

7月31日、午後、羽村コミュニティセンターで、「横田基地の撤去を求める西多摩の会」の第3回総会が開催されました。

第1部は、日本平和委員会常任理事・日本原水協理事の川田忠明さん(右写真)の記念講演「核兵器のない世界へ 次のステップを NPT 再検討会議と世界を動かした市民社会」がありました。

広島・長崎に原爆が落とされて65年、世界に核廃絶の世論は広がりました。しかし NPT 再検討会議では、いくつかの核保有国は核抑止政策にしがみついて、具体的な核廃絶の交渉開始や廃絶の期限設定を最終文書に盛り込むことに反対しました。核抑止論をうちやぶることが大事です。横田基地撤去の運動もアメリカの核の傘が安全という考えを変える運動でもありますね。

第2部の第3回総会は、松山代表(右写真)のあいさつ、来賓あいさつ、窪田事務局長の横田基地をめぐる最近の情勢と16ヶ月続けてきた「座り込み行動」など09年度の取り組みの経過が報告され、10年度の活動方針も採択されました。



(写真: KC-10 空中給油機)

横田基地で 燃料給油中に 燃料漏れ

7月11日(日)、横田基地内で燃料漏れ事故が発生しました。防衛省北関東防衛局横田防衛事務所から自治体への情報提供によると、事故の概要は次の通りです。

- ①航空機(KC-10)への燃料給油中にホースがしっかりささっていなかったため、燃料漏れ(推定10ガロン)が発生した。
- ②漏れたと推定される10ガロンの燃料(jp8)のうち、推定0.5ガロン(約2リットル)のみが排水溝に流れた。残り推定9.5ガロンの燃料は回収された。ごくわずかなJP-8燃料漏れの事件であった。基地の緊急対応要員が現場に駆けつけ、基地外への影響の可能性を最小限にすることを含め、環境への影響を最小限に抑えるべく対応措置を取った。
- ③米軍の環境保護局長が現場を確認したところ、燃料が流入した排水溝は、市街の排水溝まで、約0.8キロメートル離れており、7月11日は、気温も高く、風もあり、雨はやんでいたため、燃料のほとんどが蒸発したと思われる。
- ④基地外への影響: 米側としては、基地外への影響の可能性はない。

以上は、「横田基地撤去 西多摩」のホームページの中の「ブログ」からの情報です。

横田基地では、以前、ドラム缶340本分の燃料漏れを起こし、その後も、情報公開で明らかになったのですが、たびたび燃料漏れを起こしていました。日本側は米側の「基地外への影響の可能性はない」との報告を聞くだけでよいのでしょうか。

また、この後、16日にはKC-10空中給油機が飛来、故障のため半月も居続けました。また、25日、26日、29日もKC-10が飛来していたようです。7月前半には、空中給油機のKC-135が分かっているだけでも6機飛来しています。F-15やF/A-18などの戦闘機に空中で給油する飛行機です。どこかで訓練が行われているのでしょうか、空中給油機の動きも目が離せません。

防衛省 在日米軍関係者の基地外居住者数を公表 全国で1,976人増 (No. 81 裏面)

羽村61人、あきる野30人、福生25人、昭島25人など増 (2010.3.31 時点。カッコ内は昨年。)

	居住者計	基地内	基地外
全国	105,559人 (102,454人)	77,647人 (76,518人)	27,912人 (25,936人)
①沖縄	49,761人 (46,340人)	37,090人 (34,439人)	12,671人 (11,901人)
②神奈川県	27,416人 (27,589人)	20,085人 (21,492人)	7,331人 (6,097人)
③青森	8,537人 (8,710人)	5,160人 (5,322人)	3,377人 (3,388人)
④東京	7,926人 (8,162人)	6,440人 (6,744人)	1,486人 (1,418人)
◇福生市	2,366人 (2,500人)	1,992人 (2,151人)	374人 (349人)
◇武蔵村山市	2,156人 (2,341人)	2,075人 (2,253人)	81人 (88人)
◇羽村市	1,564人 (1,493人)	1,399人 (1,389人)	165人 (104人)
◇立川市	1,017人 (993人)	811人 (792人)	206人 (201人)
◇瑞穂町	290人 (307人)	163人 (159人)	127人 (148人)
◇あきる野市	159人 (129人)	0人 (0人)	159人 (129人)
◇昭島市	108人 (83人)	0人 (0人)	108人 (83人)
◇青梅市(以下略)	46人 (38人)	0人 (0人)	46人 (38人)

横田基地の米兵の子 道路にロープ張ってバイク女性に重傷負わせた事件の公判

昨年 8 月 13 日夜 11 時過ぎ、横田基地所属の米兵の子 4 人は、東京都武蔵村山市内の路上にロープを張り、バイクの女性（当時 23 歳）を転倒させ、頭蓋骨骨折の重傷を負わせました。

殺人未遂容疑で米兵の子 4 人が 12 月 6 日逮捕されましたが、東京地検立川支部は 12 月 25 日「往来妨害と傷害の疑い」で、無職の少年（19 歳）1 人だけを東京家裁立川支部に送致しました。残る 15～17 歳の男女 3 人は不起訴処分とし、身柄を米当局に引き渡しました。

地検立川支部は「犯行の経緯などから殺意を認定できなかった」と、殺人未遂容疑での送致を見送りました。3 人の不起訴については「親が兵士で、予告なく国外に異動する可能性があり、日本の保護処分になじまない」と、米兵の家族であることを考慮した処分をしました。

7 月 21 日 1 時 30 分から、「傷害と往来妨害の罪」に問われた無職少年（19）の初公判が東京地裁立川支部（福崎伸一郎裁判長）で開かれました。傍聴席は、ほぼ満席のようでした。

弁護側は「3 人を不起訴にして、少年 1 人だけを起訴したことは不平等」などと、起訴の無効を訴えました。そして、ロープを張ったこと自体は認めましたが、「少年は車両がロープの手前で止まると考えていた」と訴えました。

検察側は、少年が「通行車両を困らせたなら面白いだろう」と事件を提案したと説明しました。そして、被害者は厳重な処罰を求めている、と語りました。

検察側からは、実況見分の様子や、被害者の心境など生々しく語られました。

事故に遭い命はとりとめ職場に復帰しても身体の調子も悪く今までのように仕事ができないと訴える女性の思い、生死をさまよった女性を見守る家族の痛々しさが、胸に響きました。

初公判は、通訳がはいるのでかなり時間がかかり、5 時半過ぎまで行われました。

1 人だけ起訴した検察側、少年の起訴は無効という弁護側。今後どう展開するのでしょうか。

次回公判は 8 月 9 日、1 時 30 分から、東京地裁立川支部で行われます。